

| | | | | | |
|------|----------|-----------|------------|--------|-----|
| 講義名 | 対1)青年心理学 | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 岩崎 久志 | 開講期・曜日・時限 | 前期 月曜日 3時限 | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | 3年生 |

主題と概要

青年期は、子どもから大人への移行期であり、心身の両面において重要な変容を遂げる時期である。本講義では、エリクソンの心理社会的発達理論を基礎に青年期の心理的・発達の特徴を学ぶ。また、青年期に多い心理的問題や精神病理についても事例も含めて取り上げ、学びを深めていく。

到達目標

青年期の心理的・発達の特徴を説明することができる。
自身の心理的課題を青年期の観点から洞察し、解決に向けた手立てを考えることができる。
将来の進路も視野に入れたライフサイクルを思い描き、他者に伝えることができる。

提出課題

授業内で取り組んだことについてレポートを作成してもらうことがある。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題の提出や小テストを実施した直後の授業において、講評や特徴的な記述内容等の紹介を行う。それに引き続いて、解説や質疑応答を実施する。

評価の基準

評価の方法と配点は次のとおりとする(予定)。
・授業内の小レポート...30点
・授業内で進時行われるディスカッションへの参加を含む受講態度...20点
・期末試験...50点

履修にあたっての注意・助言他

講義形式のため学生は受身になりがちだが、講義の内容を自らの生活や人生に引きつけて考察し、活発な意見交換を通じて考える力を養うように心がけてほしい。

教科書

.使用しない。

参考図書

| | | | | |
|-------------------|-------|---------|------|---------------|
| .よくわかる青年心理学【第2版】. | 白井利明編 | ミネルヴァ書房 | 2750 | 9784623072491 |
|-------------------|-------|---------|------|---------------|

その他

適宜プリントを配付する。

授業計画

- 第1回：青年の定義と青年心理学の概要について
- 第2回：青年期を理解する：青年期の身体的変化とそれに伴う影響について
- 第3回：青年期を理解する：青年期の認知・感情の変化について
- 第4回：自己意識の変化について
- 第5回：アイデンティティの獲得について
- 第6回：青年期の発達理論とセラトリアムの関係について
- 第7回：アイデンティティの統合と不確実性について
- 第8回：青年期の親子関係の特徴と課題について
- 第9回：青年期の友人関係の特徴と課題について
- 第10回：青年期の恋愛関係の特徴と課題について
- 第11回：キャリア選択と職業観の醸成について
- 第12回：青年期にみられる精神疾患などについて
- 第13回：青年期と社会的不適合：社会的孤立、アパシー
- 第14回：青年期と社会的不適合：ひきこもり
- 第15回：まとめとふりかえり

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献・資料を熟読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。各授業回あたり4時間の授業外学修が必要である。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。コミュニケーション能力を、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業では、説明のあと質問をしたりコメントを求める。そのため、レスポンスを使って意見を述べてもらう必要がある。

実務経験の有無及び活用

備考

- ・積極的な授業への参加を期待する。
- ・一時的に進学困難になった場合は、対面授業中での対応（オンデマンド授業へ移動はしない）とする。